

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（盛岡地区②）

懇談の記録（要旨）

【八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町】

令和6年5月17日(金)

岩手県水産会館 5階大会議室

佐々木 孝弘 八幡平市長

- ・ 令和6年度入試における平館高校の入学者は、普通科・家政科学科併せて25人と過去最低の入学者数であった。
- ・ 八幡平市としては、IT人材育成に力を入れており、いわて留学に関係させながら志願者の確保に向けて支援していきたい。
- ・ 令和6年度入試における家政科学科の入学者は6人であり、非常に厳しい状況にある。学科の改編、見直しという意見も地域からいただいている。八幡平市は観光資源が豊かなので、例えば観光学科の設置等を考えることも平館高校の特色化・魅力化に繋がるのではないかと。

佐々木 光司 岩手町長

- ・ 県教委の管理運営規則は、全国の魅力化プロジェクトの成果と相反するものではないかと。
- ・ 地域にとって、地元には高校があることは非常に重要であり、高校の魅力を高め、地域と一緒に町づくりをするという意識の醸成が非常に重要である。
- ・ 土木関係に携わる人材の育成、確保も大切である。医師だけでなく、土木に関わる人材が、定着定住して、地域に根差した企業に勤めることも、町づくりには必要なことだ。

武田 哲 滝沢市長

- ・ 管理運営規則の見直しを検討いただきたい。
- ・ 子どもの数が減ると同時に公共交通機関の減便も進んでいる。交通手段がなく、進学できる高校が限られ、夢をあきらめざるを得ない状況になりつつある。通学困難が理由で選択の幅が狭まっている状況は残念である。
- ・ 各高校を学級減、あるいは再編する場合には、志願者数だけで判断せず、地域の実情を踏まえ、丁寧に計画を進めていただきたい。
- ・ 生徒の学びを確保するためにも、寮の設置なども検討する必要がある。
- ・ 農業や6次産業に挑戦する30代、40代の世帯もあり、今後、岩手県としてIターン、Uターンを支援する場合、教育環境を整えることは非常に重要な要素である。

熊谷 泉 紫波町長

- ・ 紫波総合高校の志願者は減少傾向にある。志願者が減少している要因の一つとして、専門性が明確でないことが挙げられる。専門高校と異なり、高校で何を学び、将来的にどのような進路に繋がるかが見えないのではないかと。
- ・ 紫波総合高校の系列の見直しは必要であると考えます。
- ・ 紫波町から町外へ進学する生徒も多い。しかし、自転車競技に取り組みたいという理由から、紫波総合高校へ町外から進学してくる生徒もいる。卒業生にはオリンピックに出場するような選手もいる。そういった特色を打ち出しながら志願者を確保していただきたい。そのためにも、専門的な指導者の継続した配置も必要である。

塚田 崇博 Aqsh株式会社 代表取締役

- ・ 中間まとめでは、リーダーシップ育成の記述が少ない。今の高校生の学力は高いと感じるが、リーダーシップ育成が必要ではないか。部活動や生徒会活動、コンテストやプロジェクトなどの活動を通じてコミュニケーション能力を高め、リーダーシップ育成につなげるようなカリキュラムがあればよいのではないか。

工藤 勝弘 八幡平市農業農村指導士の会 会長

- ・ 岩手県では定員割れの高校が多いが、熊本県では、小規模校である高森高校がマンガ学科を設置し、定員に対する志願倍率が2倍になった例がある。少子化の中、再編は避けられないかもしれないが、小規模校なりの特色を打ち出す方法もあるのではないか。

府金 秀一 岩手町認定農業者協議会 会長

- ・ 人口減少と生徒数の減少は長期ビジョンの欠如が原因であると考えられる。
- ・ 農業の担い手がないのは、地域愛を醸成する教育が不足しているからではないか。
- ・ 今の高校生は、自分が高校生の時より賢く、友人とも仲良くできているので教育自体は間違っていないと思われる。

瀬川 一步 岩手町商工会 青年部副会長

- ・ 企業では人材の定着が問題となっている。地元に残らず、町外、県外に就職する生徒が増えている。
- ・ 地域の特色・魅力を生かした高校づくりを望む。
- ・ 農業、工業等の科目を地方の小規模高校普通科でも学べる環境の整備を期待する。ICTを活用した遠隔教育で専門高校と連携すれば、小規模高校普通科から専門的な国家資格も受験可能になるのではないか。

渡邊 美香子 新岩手農業協同組合滝沢支所 支所長

- ・ 生徒数の減少から、何らかの形での再編はやむを得ないのではないか。
- ・ 工業分野、商業分野に比べて、農業を志す生徒がますます減っていくのではないかという危機感がある。6次産業に対応した教育課程の見直しに期待する。
- ・ 学校紹介シートを見ると、各高校とも魅力ある取組をしているように思われる。小学生、中学生または保護者の方に発信する機会があればよいのではないか。

阿部 正喜 滝沢市商工会 会長

- ・ 少子化が進む中、再編計画の方向性は理解する。
- ・ 産業界では人材不足が深刻で、海外の人材を活用している状況もあり、外国人労働者が増えている。その子どもたちの学びの場を確保することも必要な視点ではないか。

富岡 靖博 株式会社トミオカ 代表取締役

- ・ 地域の人材を生かした授業を展開し、特色ある学習活動を行っている高校もある。
- ・ 魅力ある学校を考えるうえで、校名も重要な要素ではないか。地域に密着した校名も良いが、様々な地域の子どもたちが関心を持つような新しい校名を付けるのも一つの案ではないか。
- ・ 工業技術、特に建築設備を学べる高校が少ない。産業技術短期大学校等とスムーズに連携できる建築設備系の学科は、今後重要な分野である。
- ・ 盛岡南高校の跡地の活用についての見通しを伺う。

高橋 淳 株式会社高橋農園 代表取締役

- ・ 地域社会との結び付きを強くし、地域の産業を学び、将来的な目標を具体的にすることが今後重要になってくる。そのような活動が高校の特色化・魅力化に繋がるのではないかな。
- ・ 経営や技術革新分野に高校教育は疎いようにも感じる。国のビジョンを共有できる人材を講師にするなど、社会との結び付きを強くすることを願う。

武田 敏之 八幡平市立西根中学校PTA 会長

- ・ 中間まとめは具体性に欠ける印象を持つ。最終的に何をどのように取り組むかが見えない。そもそも、特色化・魅力化とは何なのか明確になっていない。
- ・ 産業界が実際にどのような生徒を育成して欲しいと考えているか、県教委は理解する必要があるのではないかな。
- ・ 盛岡農業高校では 20 年以上前の古い機材で実習をしている。これでは将来の人材育成には繋がらない。
- ・ マンガ学科の他、美容、アプリの開発なども魅力になるのではないかな。
- ・ 通学の利便性は重要である。公共交通機関が利用できる場所までの移動が困難な地域もある。全国に先駆けて寮の整備、通学支援に取り組んでいただきたい。

高野 智章 紫波町立紫波第三中学校PTA 会長

- ・ 少子化が進む中、再編はやむを得ないが、生徒の学びの選択肢を確保するためにも、通学等の支援が必要ではないかな。
- ・ 地域を愛する心を育てるのは、高校までの教育が大切である。
- ・ 食料自給率の向上も国の政策の一つであり、農業に取り組める面積があるのが岩手県の強みなので、地域を愛し、地域に根付く、そして、将来は地元に戻るような教育を望む。
- ・ 生徒数が減る中、不登校が増加している原因を分析しているのか伺う。

星 俊也 八幡平市教育委員会 教育長

- ・ 地元高校の活躍が、地域住民にとって大きな喜びとなり、活気をもたらしている。
- ・ 小規模校は、個別最適な学びの環境として最適であり、一定数の需要があると感じている。
- ・ 地域みらい留学など、高校独自で特色化・魅力化に向けた取組を行っている中、県教委には再編に向けて丁寧な説明と手順で取り組んでいただきたい。
- ・ 観光を学べる学科設置は地域からの要望もあるが、そのような可能性はあるのか、そして、どのような手続きが必要なのか伺う。

佐藤 卓 岩手町教育委員会 教育長

- ・ 少子化が進み、都市部に人口が集中する状況ではあるが、地方にはそれぞれの実情がある。
- ・ 高校教育の在り方を考える際に、再編を念頭に置くのではなく、高校の活性化を第一にしていきたい。
- ・ 島根県の隠岐島前高校を例にしても、地域みらい留学の取組が成果を上げるまでに数年の時間を要する。魅力化コーディネーターの配置などを続け、地域社会と高校が一体となって、地域も高校も共に活性化に繋がる支援を願う。

太田 厚子 滝沢市教育委員会 教育長

- ・ 県立高校に普通科は多いが、プラスアルファの学びの機会を創出できるような環境を望む。
- ・ 高校の空き教室を活用し、大学等との連携や、支援学校の併設もできるのではないかな。
- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒には、小規模校ならではのきめ細やかな指導が適する場面も多いのではないかな。
- ・ 次期計画では、岩手に愛着を持つキャリア教育の充実も期待する。

侘美 淳 紫波町教育委員会 教育長

- ・ 人口減、少子化の中、再編はやむを得ない状況であることを理解する。紫波町も 11 校あった小学校を 5 校に再編する際は、子どもたちを主語に、どのような大人になってほしいかを考えて進めた。
- ・ 総合学科高校の在り方について再検証が必要なのではないかな。
- ・ 統合後に使用されなくなった小中学校や高校の校舎活用も含めて計画してはどうか。

工藤 靖夫 岩手地区中学校長会 (岩手町立一方井中学校長)

- ・ 地元で高校がなくなると、地域と連携した義務教育の学びの積み上げが途絶えてしまうことになり残念に感じる。
- ・ 高校再編はやむを得ないが、20 年先、30 年先を見た再編を期待する。
- ・ 義務教育と高校では財源が異なるが、体育施設等を共用できるようにするなどの小中高連携も視野に入れたビジョンがあってもよいのではないかな。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 盛岡南高校の跡地の利用計画について、令和 8 年度までは、統合後も体育館等を授業で活用することになる。それ以後について、現在具体的な計画について検討を進めているところである。
- ・ 学科改編について、大槌高校の地域探究科の設置のような例も考えられるのではないかな。市町村の要望も伺いながら、今後、関係各所と相談の上、進めさせていただきたい。
- ・ 不登校生徒数の増加について、不登校とは、長期間（30 日以上）高校に登校できていない生徒を指す。この 2 年で病気を理由とした長期欠席の生徒が、50 人台から 100 人を超える数となっている現状である。